

(4) 環境的価値

歴史的景観資源が周囲の景観や良質な居住環境の形成に寄与している点を評価して得られる価値があります。例えば、歴史的景観資源が良好な街並みや都市環境の形成に寄与している、ランドマークとしての役割を果たしている、街路樹や並木による豊かな緑環境を提供していることなどです。

そのような歴史的景観資源が保存活用されていくことは、景観や環境にとってきわめて重要です。

- 良好な都市環境や居住環境を提供している
- 豊かな緑環境を提供している
- 景観のランドマークやシンボルとなっている など



北大イチョウ並木
(北区北13条西5～7丁目)

北大医学部創設に伴い大正11年に整備された北13条通り約350mの両側に70本ほど並ぶ。最初の桜と楓から、昭和14年頃にイチョウに変更された。豊かな緑景観の並木に成長し、黄葉時には多くの観覧者が訪れている。



安春川
(北区)

明治23年に屯田兵が掘削した灌漑用水路。市街化の進展で枯渇し荒廃したが、まちづくりと一体となった河川改修により、せせらぎの回復や遊歩道が整備され、良好な憩いの空間を提供している。



北海道庁旧本庁舎
(中央区北2・3条西5・6丁目
・明治21年(1888年)築)

「赤れんが庁舎」として広く親しまれている、札幌を代表する歴史的建造物。昭和43年の復元改修で八角塔も再現され、シンボル性も強まった。手入れの行き届いた前庭と池、豊かな植栽と協調して良好な景観を形成している。



知事公館

(中央区北1条西16丁目
・昭和11年(1936年)築)

三井合名会社別邸で、同28年から知事公館として活用。漆喰の白い壁と赤茶色の木骨に緑青(ろくしょう)がはいった銅板屋根の建物が緑豊かな庭園と調和し、中心市街地にオアシス空間を提供している。



資生館小学校のオオモミジ

(中央区南3条西7丁目)

明治29～昭和40年まで西創成小学校があった場所で、植栽時期はかなり古い。樹形がすばらしく、現小学校の新築時に保存措置がとられ、シンボリックな景観を創出している。



サッポロファクトリーレンガ館

(中央区北2条東4丁目・明治25年(1892年)築)

札幌麦酒会社が日本最大の近代工場として開拓使麦酒醸造所跡に建設。平成3年レンガ館として再生。北3条通りに面して建つ姿は、道庁に通じるかつてのメインストリートの面影を偲ばせる。



杉野目邸

(中央区南19条西11丁目・昭和8年(1933年)築)

元北海道帝国大学の教授宅で、昭和8年に同大学技師の設計で建築。湾曲した木組みや柱梁形を見せる特徴的な外観の建物が、ほぼ同時期に植えられた外国産針葉樹の樹木群とともに、豊かな居住環境を見せている。